

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

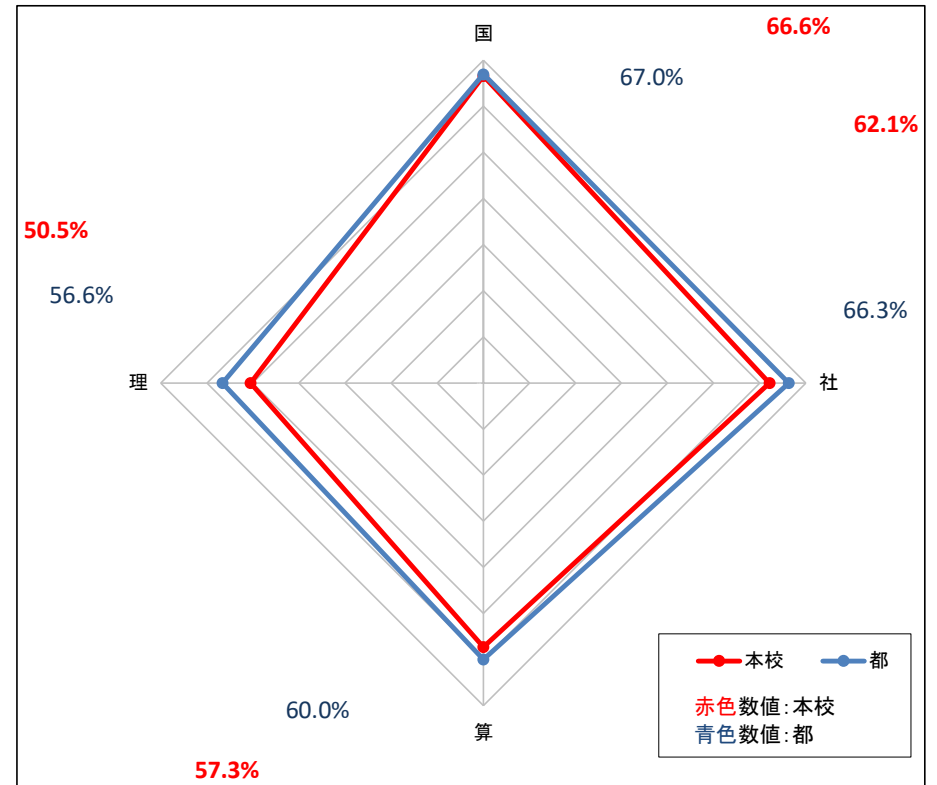
松江小学校

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	63.2%	68.4%	66.9%	67.2%	66.6%
都との差	-2.7	-2.5	-0.2	1.3	-0.4

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	62.3%	62.5%	61.1%	62.1%
都との差	-0.8	-4.0	-8.7	-4.2

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形について の技能	数量や図形について の知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	43.0%	63.3%	64.3%	57.3%
都との差	-3.4	-1.9	-3.5	-2.7

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象について の知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	49.8%	61.6%	45.5%	50.5%
都との差	-3.1	-4.8	-9.5	-6.1



《都との比較にみる本校の状況》

【東京都平均との関係】

全ての教科で東京都の平均正答率を下回る結果となった。特に理科においては東京都との開きが大きく、6.1ポイント下回った。各教科の観点別に見てみると、国語「言語についての知識・理解・技能」においては東京都の平均を1.3ポイント上回った。しかし、他教科では知識・理解の観点で東京都の平均を下回る結果となっている。

【各教科の課題】

〈国語〉話す・聞く能力及び書く能力を問う問題で正答率が低くなっている。

〈社会〉都道府県や東京都の地図など知識・理解を問う問題で正答率が低くなっている。また、グラフや地図、表など資料を活用する問題で正答率が低い。

〈算数〉数量や図形についての知識・理解を問う問題で正答率が低くなっている。また、資料を活用して課題を解決していくような数学的な考え方が問われる問題で正答率が低くなっている。

〈理科〉気象や電気、温度などの自然現象に関する知識・理解を問う問題で正答率が低くなっている。また、様々な実験の技能を問う問題で正答率が低くなっている。

《授業改善のポイント》

○基礎・基本の定着を図る。

各教科で知識・理解の能力に課題が見られたので、基礎・基本を繰り返し学習できるような日々の授業改善に努めるとともに、家庭学習での復習や補習での個別指導を充実させ、定着を図る。

○主体的・対話的な学習の充実を図る。

- ・一人一人に明確に課題設定させ、課題の解決に向けて自ら考えて試行錯誤することにより、解決に向けた思考力を養うようにしていく。
- ・自力解決したことを友達と意見交換することによって、学びを深めることができるので、対話的な学習の場面を意図的に設定していく。

○個に応じた指導の展開

学力調査やベシックドリル診断テストなどで、一人一人の課題を明確にし、個に応じた指導を展開できるようにしていく。授業時間だけでなく、補習などの時間も活用して、基礎・基本の確実な定着を図っていく。

《家庭・地域への働きかけ》

○家庭学習の定着

学年×10分は家庭学習に取り組むという最低限の目標を定め、宿題だけでなく自主的に課題に取り組むことができるように、保護者会や個人面談、学年だより等で啓発していく。

○家庭学習キャンペーンの実施

各学期に1回、家庭学習キャンペーンを設定し、各家庭への家庭学習の啓発を行うとともに、毎回の課題を学校で提示することで、児童の課題を克服できるように意図的・計画的な家庭学習ができるようにしていく。